



内閣官房 内閣情報調査室
内閣衛星情報センター

理工系学生のための採用案内

CABINET SATELLITE INTELLIGENCE CENTER

2021-2022
採用案内



内閣衛星情報センターを志望する皆さんへ

我が国における情報収集衛星の導入の閣議決定を受けて、平成13年に内閣衛星情報センターが設立されてから20年が経ちました。設立以来、当センターは政府の“目”として、国内外問わず幅広く安全保障及び危機管理に関する正確な情報を収集し、政府の重要政策の意思決定に貢献してきました。

その間も我が国を取り巻く安全保障環境は一段と厳しさを増しており、また、甚大な被害をもたらす自然災害によって私達の日常は脅かされ続けていますが、このような脅威と向き合うには、まずは情報の力が必要不可欠となります。

当センターは、更なる情報収集体制の強化に向け、新規衛星の開発・分析能力の向上に日々邁進しています。体制の強化には、人材の増強が不可欠な要素であり、皆さんの気概に富み意欲ある新たな力を欲しています。

当センターの一員として宇宙を仕事場に共に働ける日を心待ちにしています。

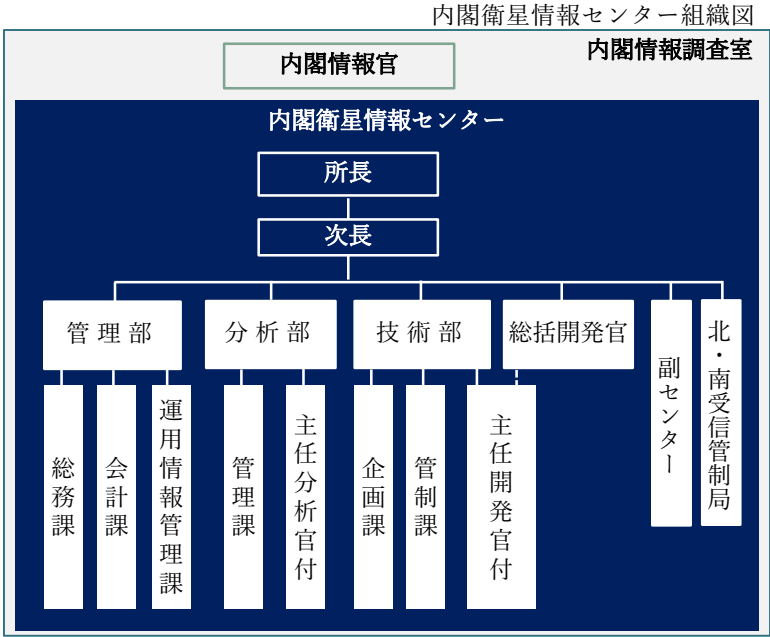
内閣衛星情報センター所長
宮川 正

内閣衛星情報センターとは

内閣衛星情報センターは、平成10年(1998年)の北朝鮮によるミサイル発射を契機に、外交・防衛等の安全保障及び大規模災害等への危機管理のために必要な情報の収集を主な目的として、平成13年(2001年)に設立されました。

現在、光学衛星2機とレーダ衛星2機の4機体制を確立しています。

今後とも機数の増加や性能向上により情報収集能力をさらに強化し、衛星開発から運用、画像情報分析まで行う唯一の政府機関として、国民に対し貢献できるよう努めていきます。



加工処理画像の公開

国内で大きな災害や事故が起こったとき、内閣衛星情報センターでは自治体や国民の皆様へ情報を提供するため、情報収集衛星の画像を加工して公開しています。平成27年に公開を始めてから令和2年までの間に、大規模な洪水や火山噴火、地震等8件の災害で、合計153件の画像を公開しています。



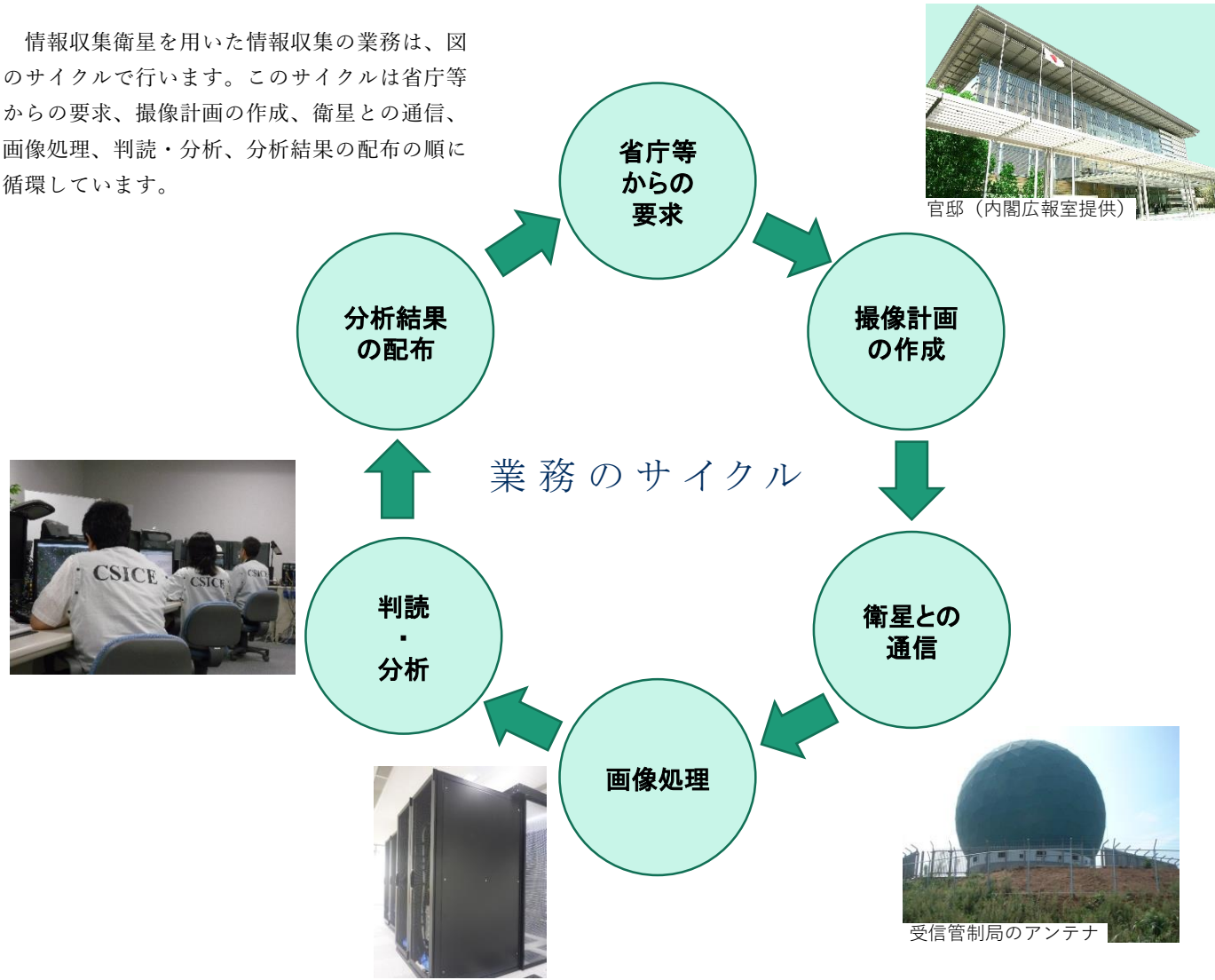
北海道勇払郡厚真町吉野地区周辺
(平成30年北海道胆振東部地震による土砂崩れ)



宮城県栗原市中央部
(令和元年10月台風19号に係る被災地域)

情報収集業務

情報収集衛星を用いた情報収集の業務は、図のサイクルで行います。このサイクルは省庁等からの要求、撮像計画の作成、衛星との通信、画像処理、判読・分析、分析結果の配布の順に循環しています。



情報収集衛星システム開発業務

内閣衛星情報センターでは情報収集の業務だけではなく、情報収集衛星システムの開発※も独自に行っています。情報収集衛星システムは衛星システムと地上システムに分類されます。情報収集衛星は、衛星との通信等を行う衛星システムと、画像処理等を行う地上システムをそれぞれ開発しています。情報収集業務を支えるために、運用者のニーズをふまえた的確な開発により、運用しやすいシステムを構築することが求められます。

※ 内閣衛星情報センターにおける開発業務とは、衛星の設計図の製図やシステムのプログラミングといった専門的な業務ではなく、情報収集衛星システムの開発業者の選定や、開発管理業務を指します。

開発管理業務とは、最新の技術情報や情報収集業務及び運用者のニーズから、今後必要となる情報収集衛星の性能等の仕様を決定するとともに、システムの開発状況を管理することです。

具体的には、開発予算の作成、最新の技術動向や運用者のニーズの調査、スケジュールの進捗管理等があります。

情報収集衛星には、現在年間600億円以上の予算が使われています。これは政府の宇宙関係予算の中で最大のものです。



内閣衛星情報センターの組織

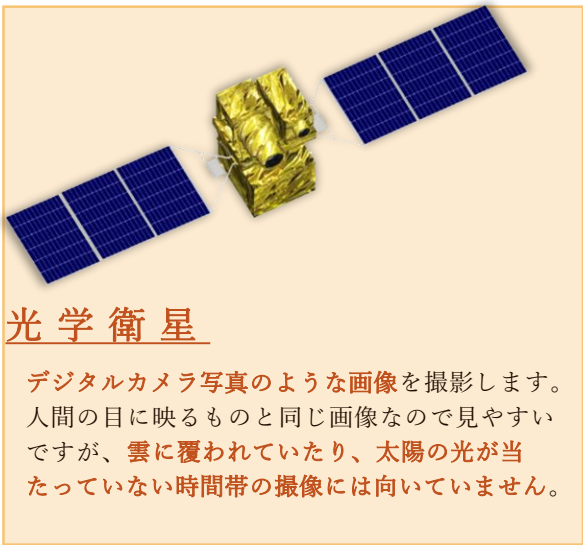
管理部

全体を俯瞰する

内閣衛星情報センター全体の業務が円滑に行われるよう内外の関係機関と連絡調整を行っていくことが主な業務となります。

たとえば、情報収集衛星の運用や開発についての政策や計画を他の政府機関と相談しながら立案したり、国会審議の対応や国会議員への説明を行ったり、情報収集衛星が果たしている役割への一般の方への理解を深める取組を進めたりといったことです。

また、情報収集衛星の性能を最大限活用し、どの地点を、どのように撮像するか計画（撮像計画）を日々作成しています。



光学衛星

デジタルカメラ写真のような画像を撮影します。人間の目に映るものと同じ画像なので見やすいですが、**雲に覆われていたり、太陽の光が当たっていない時間帯の撮像には向いていません。**



内閣官房HPで公開されている情報収集衛星加工処理画像

分析部

InformationからIntelligenceへ

情報収集衛星により入手した画像の判読・分析と報告書の作成が主な業務となります。

安全保障関連や大規模災害等の危機管理事案が発生した際は、いち早く情報収集・判読分析を行い、関係機関に提供しています。

また、普段から衛星画像や公開情報を収集し、各地の情勢を観察し、緊急事態が発生しても速やかに情報の収集・分析にとりかかれる態勢を整えています。

このほか、判読・分析を行う分析官の能力を高めるための判読分析に関する教育や、判読分析を円滑・効果的に行うための調査研究も行っています。

分析結果の例

右図は平成25年(2013年)11月のフィリピンにおける台風の被害状況についての分析結果です。

この分析結果は、台風で浸水した箇所を地図上に示した上で、滑走路には影響がないことを示しています。これにより、政策決定者は当該空港への支援物資の空輸や人員の派遣といったことを政策の選択肢に含めることができるようになります。

この様な危機管理における分析の他にも、外交・防衛等の安全保障に係る対象を必要に応じて判読及び分析を行い、省庁等へ配布しています。



技 術 部

宇宙へ送る、宇宙から受け取る

地上施設及び衛星の開発、衛星打上げが主な業務となります。

開発業務は、運用上の問題点や要望、最新の技術動向を踏まえた衛星の仕様と設計を検討し、その結果をもとに製造企業を選定して開発を実施します。

開発した衛星は、関係機関や企業と協力して打ち上げます。

地上施設及び衛星は、機能が問題なく発揮されているかを常にチェックしています。また、運用中も性能の維持向上の取り組みを続けています。



H-IIA41号機©三菱重工

副 セ ン タ ー ・ 受 信 管 制 局

副センター及び北・南受信管制局には、情報収集衛星とデータを相互に通信するためのアンテナが設置されています。アンテナはレドームと呼ばれる外殻に囲われています。このアンテナを通じて情報収集衛星の管制や状態の確認を行ったり、アンテナ自体の維持管理（健全性確認、部品交換など）を行っています。

副センターは中央センターのバックアップ機能を有しているため、受信管制業務だけではなく、撮像計画の作成、画像処理、画像の判読・分析といった、通常中央センターで行う業務も行うことが可能です。

また、副センターは情報収集衛星システムの開発に係わる試験施設としての役割を有しています。



副センター（茨城県）

技術系 職 員 の 声 ①

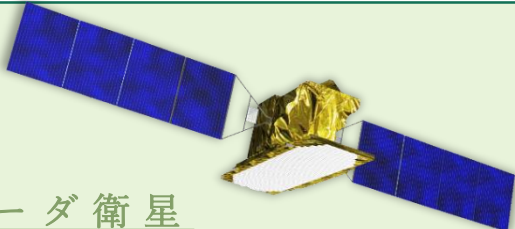
質問：技術系職員として内閣衛星情報センターで働くやりがいとはどのような所にあると思いますか。

○内閣衛星情報センターでは、衛星の開発・運用等に係わる業務の中で、技術系職員の活躍の場が多くあります。職場では技術に精通していない文系の人が多数を占めることもありますので、専門家と一般の人との「橋渡し役」となれるよう、資料作成や説明の場面では、技術的に難しい内容をかみ砕いて分かりやすく伝えることが大切だと思います。様々な人の知見、技術、アイデア等を集約して、目的を達成するための調整をしていくことが技術系職員に求められる役割だと思います。

○情報収集衛星のシステム開発・システム運用に携われるところがやりがいの1つと思っています。かなり大規模なシステムになるため、開発には相当な時間がかかります。そのため、実際担当になってみると調べることや覚えることが多く、調整すべき内容も多く出てくるので大変なのですが、やり遂げると達成感があります。他省庁で、このような大規模なシステムを開発し、運用するといった業務がある部署はほとんど無いと思っていますので、システム開発をしたい、または大規模なシステムを運用したいという方にとってはやりがいが多くある職場だと思います。

- 1 国家公務員になろうと思ったきっかけを教えてください。
- 父親が国家公務員であったため、就職活動をする際に真っ先に思い浮かびました。それとは別に国家公務員のことを調べていくうちに、多くの方のために働ける国家公務員に魅力を感じ、受験に至りました。
 - 女性でも安定して働くことができる点、興味のある安全保障分野に携われる点と、自分の得意分野が必要とされている点に魅力を感じ、国家公務員になろうと思いました。
 - 福島に住んでいた高校生時代は東日本大震災、茨城に住んでいた大学時代には鬼怒川の氾濫と災害に触れる機会が多くありました。そのため、学んだ物理を災害対応に生かせる仕事で探していたところこの仕事を見つけ志望しました。
 - きっかけは映画「シンゴジラ」でした。国家の危機に際して、計画立案の最前線に立って、主体的に事態対処に向かう姿に憧れを抱き、漠然と国家公務員になりたいと考えました。

- 2 現在担当している業務内容を教えてください。
- 開発に伴う委託業者との調整業務を担当しています。
 - 衛星画像を分析する既存業務の高度化・効率化手法の調査研究について主に担当しています。
 - 衛星の画像に関する様々な業務を担当しています。衛星画像と一口に言っても画像ができるまでの過程や校正検証の方法などは衛星の種類によって全く異なります。私の所属する部署では、ほとんどの人が最初にそれぞれの画像の成り立ちや校正検証の方法を勉強します。その上で、画像の品質をどのように維持管理するのかを考え、将来はどのように画像を利用していき、またどれだけの品質を求めるのかを考えていきます。
- 3 採用後、改めて思う衛星センターの魅力を教えてください。
- 衛星センターでしか経験できないような業務があり、その業務に携わることができるということが魅力だと思います。
 - 「国に必要な情報とは何か」や「画像による情報収集の在り方」について腰を据えて取り組むことができる点が魅力です。また、いち早く国の関心対象の情報へと正確にアクセスできる点も魅力です。
 - 衛星画像を通して、我が国にとって非常に重要な仕事を支えることができているという点が魅力的だと思います。また、上司が熱心に指導してくれるので、毎日の業務で非常によくのことを勉強できる点も有り難いことだと思います。



レーダ衛星

地球の表面に自ら電波を照射し、その反射波を検出して、画像に加工します。

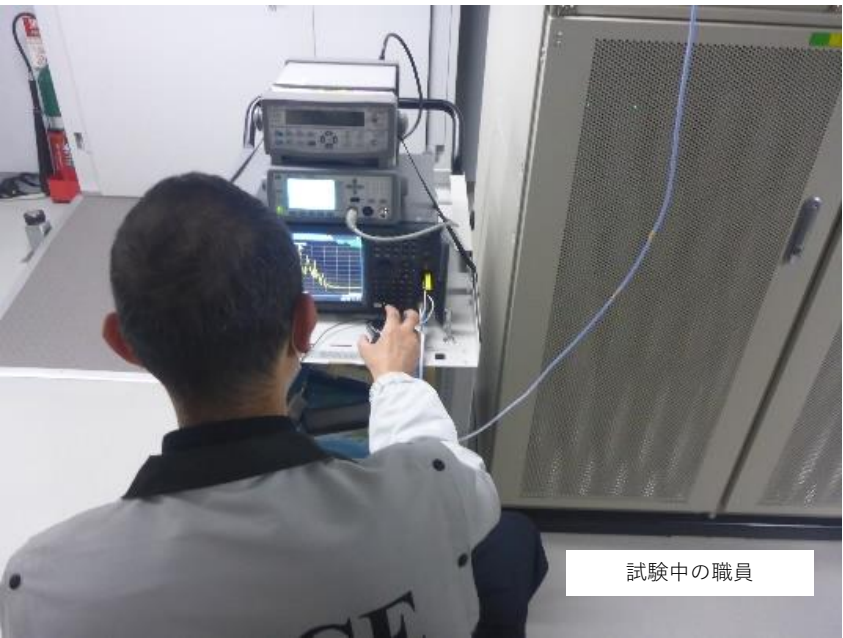
レーダ画像を判読するためには、電波の反射を読み解く技術が必要ですが、雲に覆われている地域や夜間でも撮像できるという大きなメリットがあります。

レーダ衛星画像

(民間の衛星)



(C)2019 DLR, Distribution Airbus DS/Infotera GmbH, Sub-Distribution[PASCO]



試験中の職員

- 4 学生等の皆様へ、アドバイスやメッセージをお願いします。
- 当たり前のことではあると思いますが、各省庁の役割や業務、そして自分自身のやりたいことをきちんと整理し、職種を決めてほしいと思います。そのために、現状難しいかもしれませんが、情報収集を行っていただきたいと思います。その結果、うちの省庁であれば非常にうれしいです。
 - みなさんが国家公務員になって、一緒にお仕事ができる日を待っています！そのために今できることを精一杯頑張ってください。応援しています。
 - 試験に向けたモチベーションの維持向上のため、そしてミスマッチを減らすためにも、気になる方は一度座談会などに参加することをお勧めします。

よくある質問（理工系学生向け）

Q 内閣衛星情報センターは、技術系と行政系で採用は別ですか？

A 別となっています。技術系職員は内閣衛星情報センター、行政系職員は内閣情報調査室での採用となっています。

Q どの試験区分を採用しているのですか？

A 試験区分について制限はありません。幅広い知識の職員を求めています。

Q 総合職の採用はありますか？

A 一般職のみの採用となっています。

Q 採用された場合、勤務場所はどこになるのでしょうか？

A 内閣衛星情報センターには地方組織として副センター、北・南受信管制局がありますが、職員の90%以上は東京の中央センターで働いており、東京勤務の期間が多くなります。

Q 出向や転勤はありますか？

A 出向については、少数ではありますが内閣情報調査室との人事交流や、一部省庁への出向を行っています。また、衛星開発関連企業との間で人事交流を実施しています。

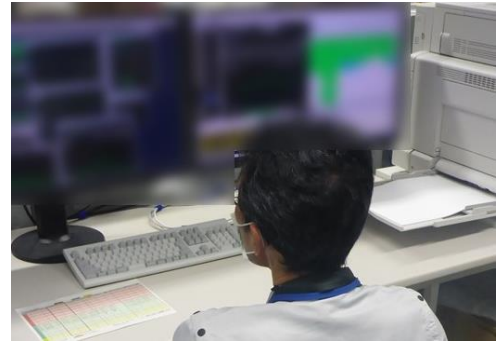
どの場合にも、原則として本人の希望に可能な限り配慮し、適材適所の観点から人員配置を行っていく方針です。

Q 大学で宇宙や人工衛星について学んでいないのですが、やっていけるのでしょうか？

A 採用時点で宇宙や衛星の専門的な知識は必須ではありません。採用後の研修や業務を通じて知識を身に付けて頂ければ良いと考えます。

Q 採用された技術系職員はどのようなキャリアパスになるのですか？

A 採用後は管理部、分析部、技術部のいずれかに配属され、基礎的な行政事務手法を学ぶとともに、ローテーションを行い、当センター業務の全体像を把握していきます。その後各職員の希望及び適性に配慮の上、それぞれの専門分野を決めていきます。なお、採用区分と専門分野が同一になるとは限りません。



技術系職員の声②

質問：技術系職員に今後更に求められる能力や資質はどのようなものだと思いますか。

○情報収集・分析業務においては、オープンソース情報を取り扱う機会も多いため、SNSを含むインターネット上の膨大な情報の中から必要な情報をいち早く見つけ出し、真偽を評価するなどの高い情報リテラシーを持つことが重要だと思います。

また、今後、AI技術の業務への活用が検討されていくことが予想される中、最新の技術動向に精通し、AIツールの活用のための専門的知識・技術を持つ人材や、高い情報処理能力を持つ人材が求められると思います。

○技術系職員の立ち位置としては、他の職員との「つなぎ」になると思っています。技術的な話や専門的な話が苦手な方は多くいると思っています（技術系ですが、私も苦手な1人です）。このようなときに、技術系職員が間に入り、相手の理解を確認しながら具体化させ、わかりやすく噛み砕いて説明していくことが求められてきます。このような状況は結構発生するので、技術系職員の出番は多いかなと思います。表舞台で活躍する機会は少ないかもしれませんが、幹部や上司を技術系の立場から支えていくのには必須な役割であると考えます。

技術系職員から学生へのメッセージ

○内閣衛星情報センターは設立してから約20年と、他省庁から比べるとまだまだ若い組織です。他省庁やメーカーからの出向者も多く、いろいろな考えを持った人がいるのも特徴です。自分の意見も通りやすく、主体的に取り組んでいけば自分でいろいろ決めることができるので、大変おもしろい職場だと思います。その反面、大変なことも出てきますが、どんな困難にもめげずに立ち向かい、そして挑戦し続けることができる強い志を持った方の応募をお待ちしています。そして、一緒に仕事ができる日が来るのを楽しみにしています。

○内閣情報調査室に採用されると、専門分野を問わず様々な業務を経験することになります。私は内閣衛星情報センターで約10年間働いてきましたが、衛星画像の分析や最新技術の調査など、当センターならではの仕事はどれも他の職場では経験できないもので、技術系の皆さんにとって、やり甲斐と楽しさが実感できると思います。

学生時代に理系として学んだ論理的考え方や、実験、論文作成の経験は職場でのあらゆる仕事に活かされますので、現在の時間を大切に過ごしてください。



〒162-0845

東京都新宿区市谷本村町9-13

☎03-3267-9564（採用専用）

JR総武線・東京メトロ有楽町線・南北線
「市ヶ谷」駅徒歩10分

